

◇学校関係者評価委員会での評価と意見◇

8月4日(月)に開かれた学校関係者評価委員会において、学校評議委員の皆様から、取組の評価とご意見をいただきました。

6つの重点項目に関わるご意見と、委員会で確認した成果と課題について報告いたします。

確かな学力

- ・ 毎日の授業の中で実態を見取り、授業改善につなげ、児童の力を伸ばしていったほしい。
- ・ 長い期間で学力が伸びているか見極めていくといい。(4～6年の3年間など)
- ・ 昨年の学力調査と比べて分析することも考えていくとよい。どのような変化をたどってきているかを見取ることが必要である。
- ・ 努力の成果がみえるようになると、子どもたちも達成感がある。話し合いの中で、子ども自らがみつける・分かる授業ができれば、子どもたちも先生も幸せである。

豊かな心

- ・ 出会ったときに、自分からあいさつをしている児童が多い。
- ・ 地域の方へのあいさつに関して、定着具合が気になることもある。
- ・ 地域にいる人もいろいろな人がいて、全ての人にあいさつするというのも心配な点がある。

健やかな体

- ・ ゲームやネットに関するアンケート結果について、注視していく必要がある。
- ・ 学校での「ハッピー貯金」等の家庭での生活リズムを整える取組が、児童が正しい生活リズムを意識して過ごそうとするきっかけになっている。
- ・ 朝食を食べていない児童がほとんどいないことは、よかった。今後も指導を続けてほしい。

安心・安全な学校

- ・ 安心安全な学校になるためには、教員が子どもの変化を見逃さず、励ましたり褒めたり声をかけたりすることが大切である。
- ・ 「困ったことがあったら相談できる」といアンケートに肯定的な評価をしなかった児童の様子をよく観察してほしい。その児童の話をよく聞いて、対応してほしい。学校には話をきいてくれる人がいると、全員が思えるようになってほしい。

家庭地域との連携

- ・ 学校前の全国の支援に対する感謝の看板は、地域の方から好評であった。
- ・ 「38人とこれからの心を紡ぐプロジェクト」において、児童自身が企画して運営していくことはよいことだと思う。その時に、目的や相手意識を必ず持って臨んでほしい。それがはっきりして

いると、評価ができる。少し悩んでも乗り越えていき、最後は達成感・満足感をもって終われるようになってほしい。

組織力向上と働き方改革

- ・小規模校であっても多忙な日々だと思う。組織力向上の取組には全職員で効果的な取組を探ってほしい。

2 成果と課題

《成果》

- ・児童アンケート 13「友達と一緒に遊んだり、活動したりするのは楽しい。」では100%の肯定的な評価があり、児童は学校で友達と共に過ごす時間は楽しいと感じている。「38人とこれからの心を紡ぐプロジェクト」や各学校行事、総合的な学習の時間（海洋教育）などにおいて児童が主体となって思考し、活動や取組を続けてきたことが肯定的な意見につながったと思われる。
- ・学校や学級のお便りやホームページでの情報提供に関わるアンケートでは、保護者も教員も100%の肯定的な評価であった。学校便り・学級便りは月一回以上の発行を定例化できた。また、ホームページでの情報公開も週3回程度の更新は継続してきた。
- ・児童アンケート 16「先生は自分のよいところをやががんばっているところをほめてくれる。」や保護者アンケート 20「学校は緊急メールやお知らせなどで、迅速に情報を発信している。」では、肯定的な評価が100%であった。生徒指導に関わる情報をスピーディーに共有し共通実践を図ってきたり、各種便りや保護者連絡サービスアプリなどを通じてタイムリーに情報を伝えてきたりしたことが安心・安全な学校作りへの基盤となっている。

《課題と改善点》

- ・インターネットの使用状況に関わるアンケートにおいて、児童・保護者ともに評価が低かった。児童においては昨年度よりも低くなっている。児童の使用状況の実態を把握し、指導へとつなげていく。2学期以降もメディアルールの見直しを行う場を設定し、強化週間の実施や評価の還元など家庭との連携をさらに図っていく。
- ・児童アンケートの18「困ったことがあったら先生に相談できる」では18.4%が否定的な評価であった。今回のアンケート結果を総合的に分析し見守る必要がある。今後はスクールカウンセラーによる定期的な個別の面談や日常的な声かけを行い相談しやすい環境を作っていく。
- ・「確かな学力」に関わるアンケートにおいて、児童も保護者も基礎的な力についてはついていくという評価が多かった。しかし、家庭学習については、保護者は3割程度、児童は2割程度が目指す姿には到達していないと感じている。今後も、学習状況を見取り個別指導していく必要がある。また、今後の指導改善に生かすために、学力調査の結果を昨年度の調査と比較した学力の状況を明確にまとめていく。